



# 生き生きとした目と心をもった子 まっぼっくい

中西別小学校だより・PTAだより・育成会だより No.9

発行：中西別小学校  
校長：古森 康晴  
PTA 会長：清水 彰  
育成会会長：林 雅峰

平成30年11月30日（金）発行

## 「生涯スポーツを楽しむ姿勢と基礎体力・心のたくましさを身に付けた子ども」を目指して!

昨年より1日遅れの11月21日、中西別にも雪が積もり、寒さも一段と厳しくなって参りました。保護者・地域の皆様におかれましては、寒い中でのお仕事、大変ご苦労様です。

さて、本日、中西別中学校体育館において中西別地区生涯学習推進協議会が主催する「子どもの成長を見る会」が開催されました。本事業は、本地域で育つ幼稚園児から高校生までの成長を、地域住民が一堂に会し確かめる行事です。今年度もそれぞれの発達の段階を踏まえた成長の証が披露されました。

1年生は、国語の時間に調べた働く自動車のつくりや役割について発表しました。4年生は、社会の時間に調べた都道府県の特産品などをクイズにしました。また、5、6年生は総合的な学習の時間に調べた水産業と福祉について発表しました。どの学年も特別な発表ではなく、日頃の授業で取り組んできた学習内容を発表させていただきました。とりわけ、2、3年生は、体育の時間に取り組んでいる縄跳びとダンスを合わせた表現を発表しました。子ども達は、発表内容について自分達で何度も話し合い、種目や構成を考えました。



第2、3学年の練習風景

このように「よりよい発表をする」「技やダンスを成功させる」などの目標を達成するために、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく経験が学校教育では求められています。また、他者とのよりよい関係を構築しながら協働するためには、健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質・能力を育て、心身の調和的な発達を図り、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指すことも必要です。

本校では、学校評価の前期資料にも掲載しましたが、「生涯スポーツを楽しむ姿勢と基礎体力・心のたくましさを身に付けた子ども」の育成に向けて体力向上を目指すとともに、望ましい生活習慣の定着のための意識を高めるよう努めています。

今号では、体力向上に関する「中西小版サーキットトレーニング」や「なわとび検定」、心身の健康の保持増進に係るがん教室について具体的な取組を紹介します。



中西小サーキット

本校では、各種調査結果から体力面において柔軟性・走力・持久力に課題があることがわかったので、体育の時間を有効に使うため「中西小版サーキットトレーニング」に取り組んでいます。二人組でのストレッチや体幹トレーニング、両足ジャンプなどの運動に取り組み、成果を検証するために北海道教育委員会が主催している「サーキットトレーニングチャレンジカップ」に参加します。



なわとび検定

本校の児童は、各種調査結果から体力面において跳躍力に課題があることがわかったので、体育の時間などを有効に使うため縄跳びに取り組んでいます。

その取組の1つである「なわとび検定」では、児童は体育ファイルに跳躍回数を記録し、自分の苦手な跳び方を把握したり、次の目標を立てたりしながら友達と記録を見せ合い、それを励みにしながら挑戦しています。



がん教室

2020年度から実施される新学習指導要領には、現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容が掲載されており、その課題の1つに心身の健康の保持増進に関する教育があります。本校では学習内容を先取りしてがん教室を実施しました。

医療が発達した現代社会においても、日本人の二人に一人はがんが発生しています。がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める必要があります。